

カテキスタ養成講座

カテキズム要約（33-65 番）

〔総 論〕

教会学校の勉強時間は 30 分から 45 分。1 時間みっちりあればよいが、なかなか確保できない。35 分くらいで 33 番から 65 番までを見渡し、伝えることを目標にしたい。

これから取り上げる箇所を確認。

第一編「信仰宣言」の中の、第一部が終わって第二部の第一章に当たる部分です。第二部第一章は番号の数で言えば 33 番から 78 番で、そのうち今回扱うのは 33 番から 65 番です。32 個の問題を扱います。次回は 66 番から 78 番なので、12 個の問題を扱うことになります。

何回で取り扱えるのか

今回今週と来週の二回に分けて第一編第二部第一章を扱いますが、実際の教会学校では、何回で取り扱えるのか、考える必要があります。二回なのか、三回なのか、ひょっとしたら一回なのか。それによってどこまで取り扱えるかも、違ってくるでしょう。十分学んで、実際の要理の場面で与えてもらえる時間に応じて、うまく処理する必要があります。

大人の洗礼の準備の場合

大人の洗礼の準備の場合はなおさらです。もっと広い範囲を、たとえば第二部の第一章と第二章を、一度の勉強でまとめて取り扱わなければならないかもしれません。私たちは内容を掴んだ上で、たとえば一時間しかない中で、どのように処理するか、臨機応変に対応する必要が出てくるでしょう。

箇条書きで見てみる

一緒に勉強する内容を箇条書きしてみました。カテキスタに与えられた時間があまりない場合は、この箇条書きしかホワイトボードに書けないかもしれません。この講座では、もっと簡略化して書くこともできます。

信条とは何ですか[33]

(最も古い信条[34]・最も重要な信条[35])

信仰宣言は「わたしは神を信じます」で始まる。最も重要だから[36]
わたしたちが宣言するのは「唯一の神」です[37]

(ご自分を啓示なさる神[38]神のみが起源もなく、終わ
りもなく、「あるというかた」[39])

神の名の啓示は重要。神のみが、永遠から永遠まで、世界と歴史を超越
しておられるかた[40]→神の豊かさの実例が並ぶ。

(神は真理です[41]・神は愛です[42]・唯一の神に触れ
た人の応答[43])

信仰の中心的神秘は至聖なる三位一体[44]

(至聖なる三位一体の神秘に、人間の理性だけでは到達
できない[45]イエス・キリストは御父を啓示する[46]
イエス・キリストは聖霊を啓示する[47]教会は三位一
体の信仰を表す[48]神の三位のペルソナの働き[49])

神が全能であることはどのように現れましたか[50]

「初めに、神は天地を創造された」と断言します[51]

(世界を想像したのは→父と子と聖霊[52]世界は神の栄
光のために創造された[53]神は英知と愛をもって、自
由に万物を創造された[54]神の摂理について[55]神は
人間に、神の摂理に協力する力をお与えになる[56])

なぜ悪は存在するのですか[57]

(なぜ悪の存在を許されるのですか[58])

「初めに、神は天地を創造された」→神は見えるもの、見えないもの、
すべてのものの造り主[59]

(天使も創造された[60]教会生活の中での天使[61]目
に見える世界は被造物の価値と目的を知らせてくれる
[62]人間は目に見える被造物の頂点[63]被造物の間
には、神が望まれた相互の依存関係と順位があり、一
致と連帯がある[64]創造のわざは、あがないのわざに
おいてその完全な意味と実現を見ます[65])

「書く」というのは時間がかかる

「書く」というのはわりあい時間がかかるので、「勉強を進める」ということと「書いて理解を深める」ということとは必ずしも両立しません。難しい問題ですが、勉強を進めるためには、あまり書かないほうが進むと思います。学ぶ相手にもよりますが、これも臨機応変です。

生徒に2つのことを学ばせる

体験したことがある人もおられると思いますが、カテキスタが生徒（相手）に教える内容は、2つの面があると思います。1つは、「内容を説明する」ということ、もう1つは「この内容は信じることができる」ということを伝える。2つの面があると思います。

内容の説明は、教科書をていねいに読み、自分自身が説明できない言葉がないか、見渡しておけば、十分できることです。箇条書きのプリントを見渡すと、「信条」や「摂理」は必ず説明を加えるので大丈夫ですが、「啓示」とか「神秘」「ペルソナ」「あがない」などは説明なしに教科書に出てきていますから、自分でどう説明するかを前もって用意しておく必要があります。内容の説明のためにはこれで臨めるでしょう。

もう1つの、「この内容は信じることができる」この部分を伝えるためには、自分自身がその教える内容を信じていると、簡潔に伝えることのできる材料を持っておく必要があります。

たとえば、37番の「わたしたちはなぜ『唯一の』神を宣言するのですか」という教えは、内容の説明としては教科書で十分解き明かされています。ただ、神はイスラエルの民にご自分を唯一のかたとして語られたかもしれませんが、それをどう説明すれば日本人の私たちが信じることができるのかを簡潔に示す材料がなければ、伝わらないと思います。神の働きかけはこの地上という限られた、制約の多い中で行われました。始まりはイスラエルの民でしたが、神さまの計画はすべての人のためであったことがイエス・キリストを通して明らかになります。だから、私

たち日本人も、この教えを信じることができるのです。

「唯一の」神である必要があるのは、神に「これができる、あれはできない」「この分野は専門だが、この分野は専門外だ」そういう神が多種多様存在するのは神の特徴からして矛盾するからです。

しばしば、「この内容は信じることができる」この部分が教科書には書かれていません。当然信じるべき内容だからです。ただ学ぶ生徒(相手)は、初めてキリスト教に触れる人もいるし、いろんな疑問や質問を投げてきます。質問しながら、「この内容は信じることができますか」と間接的に聞いている場合もあるわけです。

「人間も、神が造ったのですか。」この質問は、「六日間の創造の最後に人間を造りました」という内容の説明と同時に、「神が関わってくださらなければ、人間は存在し得ないのです」という信念を伝えなければ、「この教えは信じることができる」と納得してくれないと思います。「内容の説明」と、「この教えは信じることができる」という学びを、生徒(相手)に伝えてほしいと思います。

内容の説明のために——語句説明

「啓示」・・・神が人間に自己を啓(ひら)き、真理を示すこと。聖書の啓示は、最高の啓示者であるイエス・キリストによって完全なものとした。

「神秘」・・・人知でははかり知ることのできない超越的な事柄。

「ペルソナ」・・・位格ともいう。本来の意味は俳優のかぶる仮面。そこから奥にある実体を意味することになり、個的人格 person の意となる。キリスト教神学におけるペルソナ(位格)とは、三位一体論に関して、神の唯一の神性のなかの三つの「私」といえる基体の意であり、客観的に1個のそれ自体で完結している全体、直接神に向ってつくられた唯一のものとして、それ自体で完成した理性的な単一実体 substantia を意味する。これはテルトゥリアヌスによるとされ、以後こ

の語は西欧神学、哲学において、認識と愛とをそなえた精神的実体の意で用いられた。(参照・ブリタニカ国際大百科事典)

「Filioque」・・・聖霊発出論争における用語。ニケア・コンスタンチノープル信条では聖霊は「父から」発出するとされていたが、ラテン教会はこれに「フィリオクエ」(子からも)の1語を加えた。この表現は5世紀以来スペインから全ヨーロッパに広がったが、9世紀以来東方教会の反論が強まったので、教皇レオ3世はこの教説の正当性を認めながらもこの語を信条から削らせた。11世紀になってローマで再びこの語が信条に取り入れられ、東西教会分裂の主因となった。この論争は一方では三位一体についての東西教会の考え方のニュアンスの違いによるが、それ以上に教会における権威の問題にかかわっており、現在この方面からの問題の解決が模索されている。(参照・ブリタニカ国際大百科事典)

「あがない」・・・「買い戻す」の意味。イエスは人間をすべての不義からあがなってくださった。

[各 論]

33. 信条とは何ですか。

キリスト教はユダヤ教から独立していきました。そのため、キリスト教固有の信仰の全体を表現し、伝える一定の文章が必要でした。固有の信仰を表す、すべてのキリスト信者に共通の規範となることばを「信条」「信仰宣言」「クレド」と呼びます。

使徒言行録の中で「イエスこそ救い主である」と自分たちの信仰を表明した人たちが「キリスト者」と呼ばれる場面があります。「キリスト者」と呼ばれるようになった彼らは、当然ユダヤ教徒は違う、固有の信仰を表明する系統立てられた一定の式文が必要でした。

【使徒言行録 11 章 25 節-26 節】それから、バルナバはサウロ

を捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間そこの教会と一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。

34. 最も古い信条はどれですか。洗礼用の信条です。

35. 最も重要な信条はどれですか。使徒信条と、ニケア・コンスタンチノーブル信条です。

洗礼用の信条

天地の創造主、全能の、神である父を信じます。
父のひとり子、おとめマリアから生まれ、
苦しみを受けて葬られ、死者のうちから復活して、
父の右におられる主イエス・キリストを信じます。
聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、聖徒の交わり、
罪のゆるし、からだの復活、
永遠のいのちを信じます。

36. 信仰宣言は、なぜ「わたしは神を信じます」という言葉で始まるのですか。

「わたしは神を信じます」という宣言は、もっとも重要なものであり、人間および世界についての他のすべての真理の、また神を信じるあらゆる人の生活全体の源泉だからです。

37. わたしたちはなぜ「唯一の」神を宣言するのですか。

神がイスラエルの民にご自分を唯一のかたとして啓示なさったからです。(→聖書の引用を確かめるなら申命記 6・4、イザヤ 45・22)。イエスご自身、このことを確認し、神は「唯一の主である」(マルコ 12・29)といわれました。イエスと聖霊もまた神であり、主であると宣言することによって、唯一の神のうちにはいかなる分離ももたらされることはありません。(イエスは神を「わたしの父」[ヨハネ 5章 17節ほか 20箇所参照できます]と呼びました。ですからイエスと聖霊もまた神であり、主であります。)

38. 神はどのような名でご自分を啓示なさいますか。

神は、モーセに対して、ご自分を生きている神として啓示しておられます（出エジプト 3・6）。同じくモーセに対して、「わたしはある（YHWH）という者だ」（出エジプト 3・14）と啓示なさいました。神の名は、すでに旧約の時代に主ということばで置き換えられるようになりました。こうして、新約において主と呼ばれるイエスは、真の神としてお現れるになるのです。

39. 神のみが「ある」のですか。

被造物がその存在のすべてとそのもっているものをすべてを神から受けたのに対し、神のみがご自身において存在に満ちた方であり、あらゆる完全性に満ちた方です。神は起源もなく、終わりもなく、「あるというかた」です。イエスは、ご自分もまた、「わたしはある」（ヨハネ 8・28）という神の名をもっていることを啓示なさいます。

40. 神の名の啓示はなぜ重要なのですか。

神は、ご自分の名を啓示するにあたって、ご自分の名状しがたい神秘の中に含まれている豊かさを知らせてくださいます。つまり神のみが、永遠から永遠まで、世界と歴史を超越しておられるかたであるということです。神が天地を創造されました。神は忠実なかたであり、ご自分の民を救うために、つねにこの民の近くにおられます。際立って聖なるかた、「あわれみ豊かな」（エフェソ 2・4）かた、常にゆるそうとしておられるかたです。霊的で、超越していて、全能で永遠、人格的で、完全な存在です。真理であるかた、愛であるかたです。

「神は、限りなく完全な存在、すなわち、三位一体です。」（聖トリビオ・モグロベホ）。

41. どのような意味で神は真理なのですか。

神は真理そのものであり、したがって間違えることはなく、欺くこともできないかたです。神は「光であり、神には闇がまったくない」（一ヨハネ 1・5）のです。受肉した知恵である神の永遠の御子は、「真理についてあかしをするために」（ヨハネ 18・

37) 世に遣わされました。

42. 神はご自分が愛であることをどのようなしかたで啓示なさいますか。

神は、父親や母親が自分の子どもに対してもっている愛や、花婿が花嫁に対してもっている愛よりも強い愛をもっているかたとして、ご自分をイスラエルに啓示なさいます。神ご自身が「愛です」(ヨハネ 4・8,16)。無償で全面的にご自分をお与えになります。「御子によって世が救われるため」、「そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛され」ました(ヨハネ 3・16-17)。神は、御子と聖霊を遣わしてご自分が愛の永遠の交わりであることを啓示なさいます。

43. 唯一の神を信じることに伴って何が求められますか。

以下のことが求められます。神の偉大さと威光を知ること、感謝のうちに生きること、いつでも、たとえば逆境の中にあってもつねに神に信頼すること、神のかたとりとして創造された人間すべての一致と真の尊厳を認めること、神が創造されたものを正しく用いることです。

44. 信仰およびキリスト者の生活における中心的神秘は何ですか。

信仰およびキリスト者の生活における中心的神秘は至聖なる三位一体の神秘です。キリスト者は、父と子と聖霊の名によって洗礼を授けられます。

45. 至聖なる三位一体の神秘は人間の理性だけで知ることができますか。

神は、ご自分が三位一体であることの何らかの痕跡を、創造において、また旧約において残されました。しかし、三位一体としての神の存在の内奥は、人間の理性だけでは到達することができないばかりか、神の子の受肉と聖霊の派遣の前にはイスラエルの信仰によっても到達することができない神秘でした。この神秘は、イエス・キリストによって啓示されました。これは、他のすべての神秘の源泉です。

46. 御父の神秘についてイエス・キリストはわたしたちに何を啓示なさいましたか。

イエス・キリストは、神が「父」であることを、わたしたちに啓示なさいます。神が「父」であるのは、単に万物と人間の創造主であるからだけでなく、とくに永遠からその懐において、ご自分のことばである御子、「ご自分の栄光の反映であり、ご自分の本質の完全な現れ」（ヘブライ 1・3）である御子を生み出されるかただからです。

47. イエス・キリストがわたしたちに啓示してくださった聖霊とはどのようなかたですか。

至聖なる三位一体の第三のペルソナです。神であり、御父と御子と一つであり、同等なかたです。聖霊は「父のもとから出る」（ヨハネ 15・26）かたです。御父は、本源のない本源として、三位一体のいのち全体の起源だからです。聖霊はまた、御父が御子に与える永遠のたまものによって、御子から発出するかたでもあります。（Filioque）。聖霊は、御父と、受肉した御子から遣わされ、教会を導いて「真理をことごとく悟らせ」（ヨハネ 16・13）ます。

48. 教会は三位一体の信仰をどのように表しますか。

教会は、父と子と聖霊の三位のペルソナにおける唯一の神を告白することによって、三位一体の信仰を表します。三位一体の神のペルソナは唯一の神です。それぞれが、唯一で分かつことのできない神の本性の充満と同一だからです。三位のペルソナは、それぞれが他の二位のペルソナとの間にもつ関係によって、互いに、そして実際に区別された存在です。御父は御子を生み、御子は御父より生まれ、聖霊は御父と御子から発出します。

49. 神の三位のペルソナはどのように働かれるのですか。

その唯一の実体において分離しえない神の三位のペルソナは、働きにおいても分離することができません。三位一体は、ただ一つの同じ働きをもっておられます。しかし、神の唯一の働き

において、それぞれのペルソナは三位一体のうちにそれぞれ固有のしかたで現存しておられるのです。

「ああ、わたしの神、わたしの礼拝する三位一体よ、・・・わたしの魂に平和をお与えください。わたしの魂をあなたの天、あなたの愛する住まい、あなたの憩いの場としてください。わたしがあなたを孤独にしておくことがありませんように。わたしが余すところなくそこにいて、信仰のうちにわたしのすべてが目覚め、わたしのすべてが礼拝し、わたしのすべてがあなたの創造のわざにささげられた者となりますように」(三位一体の福者エリザベト)

50. 神が全能であるとはどのような意味ですか。

神は、ご自分を「強く雄々しい」(詩編 24・8) かた、「できないことは何一つない」(ルカ 1・37) かたとして啓示なさいました。神の全能は普遍的、神秘的であり、無からの世界の創造と愛による人間の創造においても現れます。しかし、とくに、御子の受肉と復活において、人を神の養子とするたまものにおいて、また罪のゆるしにおいて現れます。このため、教会は「全能永遠の神 (Omnipotens sempiterna Deus...)」に向かって祈るのです。

51. 「初めに、神は天地を創造された」(創世記 1・1) と断言することが重要なのはなぜですか。

それは、創造が神の救いの計画全体の土台だからです。神の全能で知恵に満ちた愛を示しているからです。唯一の神のその民との契約に向けた最初の一步だからです。キリストにおいて頂点に達する救いの歴史の始まりだからです。自らの起源と目的についての人間の根本的な問いに対する最初の答えだからです。

52. だれが世界を創造しましたか。

世界の創造のわざは、とくに父である神に帰せられますが、父と子と聖霊が唯一で分かつことのできない、世界の根源です。

53. 世界はなぜ創造されたのですか。

世界は神の栄光のために創造されました。神は、ご自分の善と真理と美を示し、伝えようと望まれました。創造の究極目的は、神がご自分の栄光とわたしたちの幸福のために、キリストのうちに「すべてにおいてすべて」(一コリント 15・28) となられることです。

54. 神はどのように万物を創造されましたか。

神は英知と愛をもって、自由に万物を創造されました。世界は、何らかの必然性、まったくの運命、偶然などの産物ではありません。神は「無から (ex nihilo)」(二マカバイ 7・28) 秩序のあるよい世界を創造されましたが、ご自身はこの世界を限りなく超越しておられます。神は、御子と聖霊を通して被造界の存在を保ち、これを支え、これに活動する能力を与え、完成へと導かれます。

55. 神の摂理とはどのようなものですか。

それは神の計らいのことであり、神はこれに従って被造物を、ご自分がそこへとお呼びになった最終的な完成に導かれます。神はその計画の最高の作者です。しかし、その実現のために、神は被造物の側の協力をも活用されます。同時に、神は被造物に対して、自ら行動して、互いに相手の原因となる資格をお与えになります。

56. 人間はどのように神の摂理に協力しますか。

神は、人間が「み心のままに望み、行う」(フィリピ 2・13) よう内側から働きかけることによって、その自由を尊重しながらも、自らの行いと祈りだけでなく苦しみによっても協力する力をお与えになり、またそのようにお求めになります。

57. 神が全能であり、摂理によって取り計らうかたであるなら、なぜ悪が存在するのですか。

とても悲痛で不思議なこの問いに対しては、ただキリスト教信仰の全体を通してのみ答えることができます。神は、いかなる意味においても、直接にも間接にも、悪の原因ではありません。神は、御子イエス・キリ

ストにおいて悪の神秘に光を当てます。キリストは、人々の罪であり他の諸悪の根源である、あの大きな道徳的悪に打ち勝つために、死んで復活されたのです。

58. なぜ神は悪の存在を許されるのですか。

信仰によってわたしたちは次のことを確信しています。悪そのものから善を引き出すことができないとすれば、神は悪の存在を許されなかったでしょう。神はこのことを、すでにキリストの死と復活のときに驚嘆すべきしかたで実現されました。事実、神は、御子の殺害という最大の道徳的悪から、キリストの栄光とわたしたちのあがないという最大の善を引き出されたのです。

59. 神は何を創造されましたか。

聖書は「初めに、神は天地を創造された」（創世記1・1）と述べています。教会は、その信仰宣言の中で、神が見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主であることを宣言します。すべてのものとは、あらゆる霊的存在と物質的存在、すなわち天使と目に見える世界、とくに人間です。

60. 天使はどのような存在ですか。

天使とは、純粹に霊的で、からだをもたず、目に見えない、父子の被造物で、知性と意志を備えたペルソナとしての存在です。天使は顔と顔を合わせて神をたえず観想しながら、神に栄光を帰し、神に仕えています。そして、すべての人のために救いの使命がなし遂げられるための、神の使者です。

61. 天使は教会の生活の中でどのような存在ですか。

教会は、天使たちと一つになって神を礼拝し、天使たちの助けを願い求めます。ある天使については、典礼の中でこれを記念します。

「キリスト信者はだれでも、保護者、牧者である天使に付き添われ、いのちに導かれます」（大聖バジリオ）

62. 聖書は目に見える世界の創造について何を教えていま

すか。

聖書は、「六日間」の創造の物語を通して、被造物の価値とその目的、すなわち神の賛美と人間への奉仕という目的をわたしたちに知らせてくれます。あらゆるものは、その存在を神に負っています。神から、固有の善と完全さ、固有の法則と万物における固有の場を受けます。

63. 創造において人間はどのような場を占めていますか。

人間は、目に見える被造物の頂点です。神にかたどり、神に似せて創造されたからです。

64. 被造物の間にはどのようなつながりがありますか。

被造物の間には、神が望まれた相互の依存関係と順位が存在しています。同時に、被造物の間には一致と連帯が存在しています。全被造物が同じ創造主をもち、このかたから愛され、その栄光へと秩序づけられているからです。したがって、創造において刻まれた法則と、ものの本姓から生じる関係を尊重することは、知恵の原理であり、道徳の基礎です。

65. 創造のわざとあがないのわざの間にはどのような関係がありますか。

創造のわざは、それよりもさらに偉大なあがないのわざにおいて頂点に達します。事実、あがないのわざは新しい創造を開始します。そこでは、すべてのものが自らの完全な意味とその実現とをあらためて見いだします。